

令和4年度 湖西市文化財保護審議会

— 会議録 —

日 時 令和4年12月9日(金) 14時45分～16時30分
会 場 湖西市役所2階 市長公室

○出席者

委 員	◎渡辺 和敏	
	○牧野 茂	
	平野 克典	
	後藤 建一	
	片山 愛司	
	小林 浩二	
事務局	渡辺 宜宏	湖西市教育長
	太田 英明	湖西市産業部長
	松山 智次郎	湖西市文化観光課長
	鈴木 紀子	湖西市文化観光課 係長
	大須賀 広夢	湖西市文化観光課 主事

◎：会長 ○：副会長 傍聴人：0名

1 開会

2 報告

(1) 令和4年度文化財関係事業報告

(2) 令和5年度文化財関係事業報告

委員：大知波峠廃寺の池が改変されている。遺跡も掘削されている。

委員：以前、市職員が声かけをした際に、湖西フロンティアクラブと名乗ったそうだが、フロンティアには該当の人物はいない。スコップを背負って山を登る人物を見かけたことがあり、写真を撮ったが顔ははっきりしない。

事務局：看板を新たに作るか、ロープなどで立ち入り禁止とするか、検討。確認しに行く。

委員長：松並木は補植すればよい。史跡になった経緯は不明瞭だが、史跡であるのだから景観のため土木でなく文化財担当として補植できないのか。文化財として意見を述べるべき。

委員：松くいはい伐採するのは拡大を防ぐため正しいこと。補植も松くい抵抗性の松を植えるとよい。新居の堤防の松被害は3年前から増え始めている。防風の潮対策には有効である。松くい防除薬剤散布などでメンテナンスを行わないと、松くいは倍々に増えていく。

委員：台風の際に松葉がたくさん落ちている。白須賀もバイパスの建設のときに伐採したが今は補植したものが植えてあり、やはり松枯れしている。

委員：法泉寺の山門は、長屋門の長屋部分がないので横揺れに弱く、瓦も重いので耐震性はない。鉄骨で控えを作るなどの措置が必要。かなりの金額が必要になる。

委員：文化財側から指導や、費用を投入する姿勢が必要。維持管理だけでは文化財の未来はだめになる。

大知波も春には山菜とりの人でにぎわっている。観光活用に結び付けることは可能。教育委員会から市長部局へ移動しているが、文化財を守ることを第一に活動していた

だきたい。

3 指定（登録）候補物件の現地確認

(1) 山口観音堂

委員：本殿を拝殿のあとに建てたため、屋根の納まりが悪い。

年代の証明となるものがないが、明治期に佐吉が建物を改修したと考えてもよいのでは。

拝殿の正面に雨戸のほぞがあるので、以前は障子だったのではないか。

正面の屋根の柱に釘がでているので、そこに雨戸を吊り下げていたのではないか。

そうだとすると、ガラスがなかった明治時代の部材が残っている可能性がある。

障子であれば、「障子をあけてみよ」がここから、山口村を見張らせるいい場所であると思う。

(2) 横枕古墳

委員長：新古窯跡より優先して指定諮問してもよいと思う。

委員：市有地で公園内に看板を設置する程度の維持管理ができるので、横枕遺跡を指定するのは賛成。

(3) 新古1・2・3地点窯跡

委員長：すぐに破壊される危険があるわけではないので、横枕遺跡を優先。

4 閉会

(以上)